

2年 道徳

主題名	正しいことを進んで
中心内容項目	A-1 善悪の判断, 自律, 自由と責任
	おれた ものさし
	令和6年 5月 22日 3時間目
	児童 2年 1組 24名
	授業者 岩井 裕

1 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値 (教師の価値観)

第1学年及び第2学年「A-1 善悪の判断, 自律, 自由と責任」とは、「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」とある。このねらいは第3・4学年の「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと」、第5・6学年の「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること」につながっていく。

人として、また社会通念として、行ってよいことと行っていないことをしっかりと区別する力は、徹底して身に付けていくべきものである。誠実な日常の言動、心の裏づけの中で、正を愛し、不正を不快に思い、何が正しいかを判断して、進んで実行する力を育てたい。

(2) 児童の実態 (児童観)

この時期の児童は、正や不正について深く考える力はまだ不十分である。2年1組の児童も、人の不正に対しては指摘する一方で、自分自身も同様の行動をとってしまうこともあり、正しく冷静に判断して、周囲のことを考えて行動することには課題がある。また、影響力の強い友達に誘われると、よく考えずに同一行動を取ってしまうこともある。2年1組でもついつい「みんながやっているから」と周りに流されてしまうこともある。しかし、学校のきまりを守らないことに対しては、よくないということを実感として捉えることはできる。不正に対して勇気を持って指摘したり、注意したりすることの大切さに目を向けて、正しいと思った行動をしようとする判断する力を育てたい。

【事前アンケート】

①よいことをしたことはありますか	はい 24人 いいえ 0人
②よいことをしてよかったことはありますか	はい 20人 いいえ 4人
③それはどんなことですか	・ちょっかいをかけたらだめだよと言った ・自分からごめんねと言えた ・お手伝いをした ・分らないことを教えてあげた ・ブランコを譲ってあげた ・けがした友達を保健室に連れていった

(3) 教材への思い (教材観)

自分の過ちを人のせいにする「のぼる」。それを指摘できない「ぼく」。そして周りで「ぼく」や「ひろし」をはやしたてる「のぼるの仲間たち」。児童にとって、影響力の強い子の不正に対して、勇気を出して指摘するということは、現実には難しい。そして影響力のある人間に流されてしまうこともよくあること。それだけに、登場人物の気持ちがよく分かり、「ぼく」の取った態度に共感できるわかりやすい教材である。(あのときと同じだ…)という「ぼく」の表情の厳しさ、不正に対する許せない心の高まり、気持ちの変化をじっくりと捉えて、正しい行動を行うことよさを考えられるようにしたい。また、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして、小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てていきたい。

2 総合単元ユニットとの関係

「みんなが えがおで たのしい学校」という主題のもと、総合単元ユニットを組み指導をしていく。2年生に進級し、1年生の前ではお兄さん・お姉さんとしてがんばろうという気持ちに満ちあふれている子どもたち。しかし「お手本になりたい」という気持ちはあっても、行動が伴わずに指導を受けることもある。自分に甘く他人に厳しい面もある子どもたちだが、学級みんなが笑顔で楽しく学校生活を送るためにも、互いを認めたり許したりする関係性や、自分のため、他の人のためにきまりを守ってみんなが安心して学校生活を送る意識をこの1学期は高めていきたい。担任も子どもたちの成長や頑張り目に目を向け、全体に紹介したり褒めたりする意識をもって指導していきたい。

3 研究との関わり

(学びの主体意識をもち、道徳的な問題を自分事として捉え、自己の生き方を考えられるようにする指導の工夫)

- ①子供の「？」を大切に、「課題」を設定する
 - ・ ずれから抱く問題意識
 - ・ 主題や教材の内容に興味や関心をもたせる
- ②テーマ発問
 - ・ 自分事として課題を追求できる発問
- ③問いの選択
 - ・ 自ら問いを選択し、課題に迫っていく
- ④共通解を土台にし、納得解を導き出す
 - ・ 価値についての自分の考えをもたせる

(1) 本時のねらい

よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応 (○発問 ◎中心発問)	教師の支援・評価・研修との関わり
価値への方向付け	<p>1 ねらいとする道徳的価値に対する興味・関心を高め、「課題」を設定する</p> <p>○ ○〇ってよいこと? それとも悪いこと?</p> <p>友達の悪口を言うのはだめだよ ごみのポイ捨てもだめ ブランコを譲るのはいい友達に注意するのはいいよ</p> <p>○よいと分かっているのにできないのはどうしてだろう?</p> <p>《本時の課題》 よいことをしたときの きもちを考えよう。</p> <p>2 教材「おれた ものさし」を通して、「課題」を追求する</p> <p>○よいこと わるいこと どんなことがありましたか?</p> <p>・ のぼるが先生のものさしを折ったことが悪いと思った。 ・ のぼるは自分がものさしを折ったのに、そのことをひろしのせいにした。 ・ のぼるの仲間たちが、ひろしのことをはやしたてた ・ みえちゃんのしたじきをのぼるが割ったときは「ぼく」が割ったことにしてきた。 ・ ぼくがものさしをのぼるに渡したところがえらかった。</p> <p>○なぜ、ひろしはのぼるに言い返さないの?</p> <p>・ 自分のせいにされてひろしは悲しいけど、のぼるが怖くて言い返せない。 ・ のぼるは誰にでもいじめをするし、また今度も自分のせいにされるかもしれない。 ・ 今度は自分の物も壊されてしまうかもしれない。 ・ のぼるには仲間がいて、その仲間も怖いから ・ のぼるは怖いから誰もぼくの味方にはなってくれない。</p> <p>本時の内容項目に関して、子どもが個別に思考を深める</p> <p>「ぼく」はどうしても 「ぼく」が強くなった(変 怖い相手に立ち向かう のさしを渡せたの? わった)のはなぜ? にはどうしたらいい?</p> <p>・ 今ここで止めないと、ひろしやみえちゃんみたいな人が増えてしまう。 ・ 自分もされたことがあるから、同じようにいやな気持ちになってほしくない ・ ひろしは友達だから。友達を助けたい。 ・ 先生に本当のことを言って助けてもらおう。</p> <p>○勇気を出して行動できたことで、どんな気持ちかな?</p> <p>児童の思考の方向性 ・ よいことをすると 気持ちがすっきりする</p>	<p>教師の支援・評価・研修との関わり</p> <p>●支援 ◎研修との関わり</p> <p>◎問題意識をもたせ、学びの主体意識を高める。</p> <p>●安心感のある雰囲気づくりを行う。</p> <p>◎道徳的価値に関わる子どもの「？」を大切に課題を設定する。</p> <p>●子供たちが安心して自分の考えを話したり、書いたりできるように傾聴することを大切にする。</p> <p>●よいこと悪いことを考えながら読むように読みの視点を与える。</p> <p>◎「自分だったら」と自己投影しながら、自分の思いを素直に語る雰囲気をつくる。</p> <p>●言いたいけど言えない「ひろし」や以前の「ぼく」の気持ちに共感させながら、このままどうなるのかを考えさせることで、その後の児童の問いにつなげていく。</p> <p>◎中心発問を児童から出させる</p> <p>●児童の様子を見ながら共通解を導き出す。</p> <p>◎児童一人一人が、自分との関わりで納得解をまとめ、今後の生活につなげていくようにする。</p>
価値の追求・把握	<p>3 価値について納得解をまとめる</p> <p>○今日の学習で自分が感じたことや考えたことをノートに書きましょう。</p>	
価値の自覚・意欲化		

(3) 本時の評価について

よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。